

ウィッグデザイナー



あるあるネタ

- ・ テレビや映画を観ていて、「あ、これウィッグだな」とすぐ気づいてしまう。
- ・ 街中ですれ違った人の髪型を見て「この人に合うウィッグ、作れるな」と職業病が発動。
- ・ 色見本帳を眺めながらコーヒーを飲む時間が至福のひとつ。

初期の失敗

最初の頃、作ったウィッグの毛量が多すぎて「森みたい」と笑われたことがあります。そこから自然さと“らしさ”を大切にするようになりました。

職業病

髪にまつわるすべてのことが気になり、家族や友人の髪型にまでダメ出ししてしまいそうになるのを必死にこらえています。

健康問題

長時間の立ち作業や細かな手作業によって、腰痛・眼精疲労・手指の腱鞘炎が起きやすくなります。また、毛髪の染料や接着剤などによる皮膚のトラブルも少なくありません。

その職業に就いている人を讃える

「あなたは“もうひとつの自分”をつくるアーティストですね。髪という外見の一部に、希望や自信を吹き込むその技は、まるで人生の輪郭をそっと整える魔法の手。誰かの新しい挑戦を支えたり、静かな回復を応援したり、あなたが作るウィッグには物語があります。どうか手首と目を大切に、これからも“似合う自分”を届けてください」